



② 百獣の王と百花の王

何かを「伝える」場合、絵画や彫刻などの図像を用いることで、言葉以上に深く、広く表現できることがあります。今回は、三川に鎮座する矢刺神社の彫刻を紹介します。

写真右の唐獅子は猫のような脚、カールした体毛の特徴を備えています。角をつけて狛犬の表現方法をとっています。狛犬は建築物の彫刻としては一般的ではありませんが、両者ともライオンが起源で、霊獣として中国から伝わりました。本殿前面の柱に取り付けられています。一方、左は重厚感のある牡丹で、本殿の向拝をつなぐ梁の上に飾られています。

室町時代以降、特に江戸時代には社寺に動物や草花等が盛んに装飾されるようになりますが、華やかに行うことだけが目的ではなく、その図像を表現することとで象徴的な意味を訴えかけています。百獣の王である唐獅子は神聖な場所を守っていることを、そして百花の王である牡丹は高貴であることを示しています。彫刻が装飾されている意味



▲矢刺神社の彫刻

を考えると建造物に対する理解も深まりそうです。

これらは江戸時代末に15歳で彫刻の道を志し、25歳で独立して以来、当地域で腕を振るった石田丹治によるものです。

このほか、唐獅子と双壁をなすものとして龍があります。水をつかさどり、火災を防ぐ霊獣として装飾されます。水や海とかかわりの深い玉崎神社（飯岡）や龍福寺（岩井）、雷神社（見広）にも足を運んでみてはいかがでしょう。

参考文献 『図説社寺建築の彫刻』

〔生涯学習課文化振興班〕